



幼児を抱えるパイントウ。幼児は驚き、泣く寸前。6日、宮古島市平良島尻

泥に歓声、泣き声

宮古島市でパイントウ

【宮古島】宮古島市平良島尻の伝統行事で国指定重要無形文化財の「島尻のパイントウ・プナハ」が6、7の両日、行われた。泥だらけの来訪神パイントウが、人や物に泥を塗って厄払いをするもので、厄を払って喜ぶ大人の笑い声と、泥にまみれた神の姿を怖がる子どももの泣き声が集落中に響き渡った。

3体のパイントウは全身に草を巻き付け、生まれ井戸(シマリガ)にたまった泥

を全身に塗って登場。集落の宗家に当たるムトウを訪れ、古老に泥を塗り付けた。その後、三方に分かれて集落内を練り歩き、住民や観光客、家、車など、人や物、老若男女に問答無用に泥を塗ったり投げたりしていた。

ことし生まれた孫らと共に東京から訪れた木口八重子さん(60)は「私も孫も(数えで)厄年だ。パイントウに2人一緒に泥を付けてもらい、縁起がいい」と話し、泥を塗られた顔をほころばせていた。